

## 理事長あいさつ

### 「新型コロナウイルス」の難局を乗り切ろう

理事長 眞島 勝



今年の総会は、新型コロナウイルスの感染が全世界に蔓延しており、国内でも感染拡大の防止のため、人の密集することは自粛するようとの要請が政府および自治体よりあり、出席者を限定し規模を縮小して実施することとなりすでに終了しました。

会員の皆さまには、日頃より当センターの事業運営にご協力いただきましてありがとうございます。

令和元年度をふり返りますと、上期の梅雨時には長雨が続き、気温は例年よりも低温の日が続いていましたが、梅雨が明けた後すぐに、記録的な高温続きと台風等の自然災害が発生し、日本の経済状況は不安定でした。また米国と中国の貿易摩擦が依然解消されず、景気は低調のまま推移していました。

そのような状況のなか、当シルバー人材センターの契約高が順調に上向きに推移することができたのは、シルバー人材センターの基本理念「自主・自立・共働・共助」を忠実に守り、会員各自が受注した仕事をご意向に沿って仕上げたことが大きな要素のひとつです。このことが発注された方に認められ、受注が増えて請負・派遣の合算で本年契約高1億6,809万円、前年対比102.7%（前年実績1億6,374万円）と前年に続き

健闘しました。しかし、重要課題として計画していた会員増強については、種々の取り組みを実施しましたが、平成30年度末の会員数296名から297名と現状維持に留まりました。

今期に入り、コロナウイルスの感染が日本でも3月より急激に拡大しており、世界各国の景気が悪化して業績に表れているようです。当シルバー人材センターは令和2年度に入り、4月期については影響は極端に出いてませんが、徐々にその影響が出てくると思われるます。

このようななか、契約高の減少幅をできるだけ少なくするには、シルバー人材センターの「自主・自立・共働・共助」の、基本理念のもと、会員に生きがいのなる就労機会の提供に加え、各種ボランティア活動など地域貢献事業を通じて、多彩な事業展開を進めることを昨年度よりお願いしています。また、精華町をはじめ関係当局のご支援をいただき、各種団体と連携すると共に、各会員さまの勤勉な就業が公共・一般企業・各家庭に、今以上認められるような取り組みをお願いいたします。

今期の難局を乗り切るために役職員、会員が一丸となって全力で取り組んでいきたいと思ひます。ご協力よろしくお願ひいたします。

## 令和元年度決算監査報告

令和元年度決算にかかる監査等を以下のとおり実施いたしました。

●令和2年4月21日（火）

収支計算書及び財務諸表の確認について

衣目公認会計士・税理士事務所 公認会計士 衣目成雄

●令和2年4月24日（金）

会計及び業務監査

監事 木村 光雄

監事 古川 哲夫

### 表紙のひとこと <寛次郎の愛した植田の景色>



ご存知ですか？「せいか検定」（全100問）を、町広報誌「華創」で2006年～2008年に連載されていたのが精華町ホームページで公開されています。その第1回には①～⑦問が掲載され、③問に「河井寛次郎が一番美しいと云った村は？」が紹介されていました。この人は誰？状態でネット検索し、エッセイ「火の誓い」を知り、「人間国宝や文化勲章に推挙されても応じることなく、一陶工として独自の陶芸美の世界を切り拓き…」と記された裏表紙の紹介文に驚き、図書館にある関連の本を読み清水坂近くにある河井寛次郎記念館を訪ね、1年後の2011年秋には「ふるさと発見の旅―秋― 河井寛次郎がこよなく愛した菅井～植田の里巡り」として皆さんに紹介しました。

『次々に現はれる色々なものでいつのまにか身体中が眼だけにされてしまうのであった』『この村は始めから終ひ迄自分を魔法にかけてしまった』『この美しい部落がこんな美しい池に沿うてみたといふ思ひがけない事を最後に知らされたのであった』。寛次郎が遺した写真、言葉とともに、「寛次郎の愛した植田の景色」を“せいか小さな旅”として案内しています。

開催時は華創でお知らせしますので興味をもたれた方はぜひ参加ください。

（文：昭和19年7月『民藝』63号、「部落の總體」より抜粋）

写真撮影：清水泰律（場所：精華町植田 釈迦の池 日時：2020/05/12）